

インターバンクの声（2017 年 2 月 7 日）

先週末に発表された米雇用統計で平均賃金の伸びが鈍化したことがいつも以上に注目となり、3 月の利上げ観測が大きく後退した。そのため米長期金利も低下気味になっており、昨夜のニューヨーク市場の円相場は、ついに 112 円を割り込んでしまった。

112 円割れが直ちに極端な円買い・ドル売り相場に繋がる訳ではないだろうが、昨年の 11 月上旬にドルが対円で 105 円前後から大きな反落調整がないまま上り詰めたのが 112 円から 113 円にかけての水準だったので、どうしても逆方向に動き始めるとサポートがない分だけドル売りが加速しそうな気がするのだ。

テクニカルに強い同僚は、半日、長くても一日で 112 円台に戻せば一過性の調整相場となるだろうが、111 円台で取引される時間が長引いてしまうと、下げバイアスが今まで以上に強まると述べていた。

日米首脳会談で通貨安を誘導してきたとの話題になれば、節目の 110 円どころか米大統領選挙前の水準まで全戻しする可能性も否定出来ない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。